最初のプロジェクト。南極から冷たい海流があり、海水は冷たい。一番左側の部分から始まって、11棟のリゾートマンションと自然な雰囲気のプールになりました。水の管理の技術も開発し、ラグーンとリゾートマンションを拡張。現在ラグーンはの長さは1.1Kmで最長！

ラグーンを作れば、どこでもリゾート感を出せる。

左上第一プロジェクトのすぐ近所、内陸側の安い土地にラグーンと

リゾートマンションの開発。同じように大繁盛。

南米のゴルフ場に別荘地が建っているパタンは一般的。ゴルフ人口が減っているとともに不動産価値は低下。ラグーンを作ったら、ファミリー層にアピールができて人気を取り戻した事例

前のページ事例の違う角度から見たラグーン

ゲーテッドコミュニティの例

Crystal Lagoons
URBAN BEACHES
AYRES DE CHICUREO
SANTIAGO, CHILE

戸建て別荘地の例

有名レッドシーのスキューバダイビングスポットの郊外

（砂漠の中）で20ヘクタール（現在世界最大）のラグーン開発

前のページ事例：ホテル、ショッピングエリア等の開発が完成した時の写真。何もなかった砂漠の一区画に付加価値を付けてそして自ら観光スポットの誕生。

地元の法律と柔軟に共存して、本来型のプールとラグーンの混合事例。

（日本の場合でもこのパタンが参考になりそうです。）

水の透明度、綺麗なグラデーションは南国島の海と全く同じ。

ラグーンは広いのでボート、ヨット、遊具も使えます。

工事中の写真。地面に転圧を掛けて、特殊のライナーを設置しますのである程度平地であれば初期費用はかなり安く抑えることができます

前のページ事例、写真の完成形です。砂浜と水の間に特殊なモルタルを使えば水の管理の手間を減らすことができます。

ドバイ、DistrictOne。2021年完成予定、４０ヘクタールで世界最大の人工ラグーン候補

ドバイ、DistrictOne。世界最大の人工ラグーンの完成予想CG

シンガポールから45分でアクセスできる立地。6.7ヘクタールのラグーン。
ここで「パブリックアクセス」のビジネスモデルが確立されました。
マリオットホテルがバンガロー型のホテルのオペレーヨンを行っています。